



緊急事態宣言下での学び

緊急事態宣言が発令されている中で、2学期がスタートしました。全国はもちろん静岡県内においても、夏休みを延長したり、登校を控えてオンライン授業を行ったりするなど、自治体ごとに対応は様々でした。袋井市では、給食なしの午前中のみの日課から始まり、9月1日からは給食も開始しました。慎重な意見もある中で登校を選んだ背景には、学びの保障だけでなく、子どもたちへの次のような願いがあります。

学校生活の中で、新型コロナウイルスについて正しい知識を身につけ、その予防方法を実践することで、学校の中でも学校を離れても、感染リスクを回避しながら友達と過ごしたり、社会生活を送ったりできるようになってほしい。

地震などの自然災害と同様、子どもたちが自分の意志や判断で自分の身を守るようになることは、今後も続くコロナ禍を生きていく上で大切な資質能力だと思います。時には油断している子を見かけることもありますが、粘り強く指導して身につけさせていきたいと考えています。

一方で、校内で感染者が確認されて、休校や学級閉鎖等の対応が必要になった場合に備え、オンラインによる教育活動の準備も進めています。タブレットのWi-Fiへの接続や9月8日に行った試行授業では、保護者の皆様の協力により実施に向けた準備が予想以上に前進しました。事後アンケートで以下のような意見も寄せられましたので、今回の課題を整理してオンライン授業の方法や内容を改善していきたいと思えます。

- ・ 初めてのオンライン授業で嬉しい気持ちは分かるが、少しふざけてしまっていた。子供が落ち着いて学習するために、オンライン授業のルールをしっかりと作ってほしい。
- ・ 接続できないときにどうしたらよいか教えてほしい。
- ・ もしもの時に備えて、これからも定期的にも実施してほしい。



9月8日：オンライン授業の試行（教室から家庭にいる子どもたちに授業を行う様子）